

千葉市感染症発生動向調査情報

2022年 第35週 (8/29-9/4) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	35週	34週	33週	32週
小児科	18	17	18	12
眼科	5	5	5	2
インフルエンザ*	28	27	28	16
基幹定点	1	1	1	1

上段: 患者数
下段: 定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	8/29-9/4	8/22-8/28	8/15-8/21	8/8-8/14	8/22-8/28
			35週	34週	33週	32週	34週
小児科	RSウイルス感染症		17 0.94	9 0.53	8 0.44	11 0.92	132 1.03
	咽頭結膜熱		0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.17	6 0.05
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		7 0.39	3 0.18	1 0.06	2 0.17	14 0.11
	感染性胃腸炎	○	52 2.89	28 1.65	41 2.28	29 2.42	227 1.77
	水痘		0 0.00	1 0.06	0 0.00	1 0.08	8 0.06
	手足口病	★★★○	131 7.28	115 6.76	86 4.78	117 9.75	488 3.81
	伝染性紅斑		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.01
	突発性発しん		6 0.33	5 0.29	6 0.33	4 0.33	22 0.17
	ヘルパンギーナ		8 0.44	10 0.59	3 0.17	16 1.33	84 0.66
	流行性耳下腺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	5 0.04
インフル	インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.00
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		0 0.00	2 0.40	0 0.00	1 0.50	10 0.29
基幹定点	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		2 2.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★: 流行中 ★: やや流行中 ○: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

2 全数報告対象疾患: 5,400 例 ※ 新型コロナウイルス感染症5,389例は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	女性	40歳代	病原体の検出等	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	80歳代	細菌の分離・同定及び薬剤耐性の確認
腸管出血性大腸菌感染症	女性	20歳代	病原体の分離・同定及びベロ毒素の確認	侵襲性インフルエンザ菌感染症	男性	90歳代	病原体の分離・同定
	女性	20歳代			梅毒	女性	
	女性	40歳代		男性		40歳代	
	男性	60歳代				女性	0歳代-100歳代
	女性	60歳代		男性	0歳代-100歳代		
レジオネラ症	女性	70歳代	病原体抗原の検出	新型コロナウイルス感染症	男女	0歳代-100歳代	病原体遺伝子の検出等

* 第35週は、結核1例(102)、腸管出血性大腸菌感染症5例(26)、レジオネラ症1例(8)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1例(10)、侵襲性インフルエンザ菌感染症1例(1)、梅毒2例(31)、新型コロナウイルス感染症5,389例(131,865)の発生届があった。腸管出血性大腸菌感染症は過去10年の各年の届出数を上回り最多となった。

※ ()内は2022年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第35週のコメント

<感染性胃腸炎>

前週より増加し2.89となり。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなった。1歳で最多。区別の発生状況は若葉区(8.50)で最多で、同区の3歳で最も多く発生報告があった。

<手足口病>

前週から更に増加し7.28となった。流行発生警報開始基準値(5.00。以下「警報レベル」という)を上回ったまま。過去10年の同時期と比べると多い。1歳で最多。区別の発生状況は、若葉区(18.50)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告があった。その他、花見川区(10.50)、中央区(7.33)及び緑区(6.50)で警報レベルを上回っており、美浜区(4.00)及び稲毛区(3.00)で流行発生警報終息基準値(2.00)を上回った。

■ 「過去10年との比較グラフ」及び「区別の発生グラフ」はWebSiteでご覧いただけます。

- ・ 過去10年との比較グラフ

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph2022.pdf>

- ・ 区別の発生グラフ

https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph_ward2022.pdf